

会議結果（要旨）

会 議 名	令和3年度第1回音更町総合教育会議
開 催 日 時	令和4年2月18日 午後1時30分～午後3時40分
開 催 場 所	音更町農村環境改善センター
委 員 出 席 者	音更町長 小野信次、音更町教育委員会教育長 福地隆、教育長職務代理者 田中義博、教育委員 種川健、教育委員 川井麗子、教育委員 高橋敬貴
事 務 局 出 席 者	企画財政部長 吉田浩人、企画課長 重堂真一、教育部長兼教育総務課長 八 鍬政幸、生涯学習担当部長 重松紀行、学校教育課長 新名猛志、生涯学習課 長 宮田明子、文化センター館長 佐藤直樹、図書館長 川瀬庸一、スポーツ 課長 加藤義徳、教育総務課総務係長 櫻井泰次、生涯学習課生涯学習係主任 横田寛樹
傍 聴 者 数	なし
議 題 ・ 諮 問 内 容	1 会議録署名者の指名 2 会期の決定 3 協議案第1号 音更町教育大綱について 4 協議案第2号 郷土の歴史と文化の学びの充実に向けて
会 議 資 料	
会 議 結 果 (出された主な意見等)	別紙会議録のとおり
お 問 合 せ 先	教育委員会 教育総務課 総務係

令和3年度第1回音更町総合教育会議会議録

と き 令和4年2月18日

ところ 音更町農村環境改善センター

出席者 小野町長、福地教育長、田中教育長職務代理者、種川委員、川井委員、高橋委員
事務局 吉田企画財政部長、重堂企画課長、八鍬教育部長兼教育総務課長、重松生涯学習
担当部長、新名学校教育課長、宮田生涯学習課長、佐藤文化センター館長、川瀬
図書館長、加藤スポーツ課長、櫻井総務係長、横田生涯学習課生涯学習係主任

傍聴者数 0人

開会（13時30分）

（教育部長兼教育総務課長）

令和3年度音更町総合教育会議の開会に先立ちまして、小野町長からご挨拶をいただき
たいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

（町長）

今日は総合教育会議ということで、お忙しい中、こうしてお集まりいただきましてありが
とうございます。

さて、今日の総合教育会議は、町と教育委員会とが教育に関する課題や将来あるべき姿を
共有し、意思疎通を図りながら教育行政を推進するために定期的開催をしているもので
あります。本年度から多くの方々の協力により策定をしました第6期音更町総合計画がス
タートしています。この計画は、今のまちの課題や、変化を踏まえるとともに、将来のまち
づくりの歩みを止めないための指針として示しているところでございます。現在、新型コ
ロナウイルス感染症の拡大によりまして、各方面に大きな影響が出ており、教育もその影響を
受けた1つであると思います。しかし、このような状況であっても十分な感染防止対策を施
した上で、子どもたちの学びの保障、そして多様な学習機会の提供を支援していくことでま
ちづくりを担う人材を育てていき、また、どんな困難に直面してもまちづくりの歩みを止め
ないという対応力を高めていきたいと思っております。

本日の会議のテーマ、音更町教育大綱についてと、郷土の歴史と文化の学びの充実に向け
ての将来の教育行政、ひいてはまちづくりを行う上で重要な内容となっていきます。郷土資
料室リニューアルに向けた取組や、今後のあり方などを施設内の視察を含めて情報共有し
ていきたいというふうに思っております。

この会議が音更町の今後の教育行政に意義あるものとなりますように期待をしまして、
今日のご挨拶にかえさせていただきます。どうぞ本日はよろしくお願い致します。

(教育部長兼教育総務課長)

ありがとうございました。

ただいまから令和3年度音更町総合教育会議を開会をいたします。

これ以降の進行は町長をお願いをしたいと思います。よろしく願いいたします。

(町長)

それでは議事に入らせていただきます。

はじめに会議録署名者の指名を行います。

本日の会議録署名者は、川井委員を指名いたします。続いて、会期の決定を議題といたします。会期は本日の1日間にしたいと思います。ご異議ありませんか。

(各委員)

異議なし。

(町長)

異議なしと認め、会期を本日1日間と決定いたします。

それでは、協議案1号 音更町教育大綱についての件を議題といたします。

事務局から説明いたします。八鍬教育部長。

(教育部長兼教育総務課長)

議案書の1ページをお開き願いたいと存じます。

音更町教育大綱についてご説明を申し上げます。

今回ご協議いただく件につきましては、議案書の6ページに参考として添付しております現在の音更町教育大綱の見直しを行おうとするものでありまして、本会議においてご審議いただきたくご提案をしたところでございます。

それでは議案書の1ページからご説明をさせていただきます。

はじめに、1の教育大綱の位置づけであります。平成27年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第1条の3の規定において、町長は地域の実情に応じ、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとされたところでございます。そのことに伴い、本町では、平成27年に総合教育会議での協議を経て、平成29年度までの3年間を対象期間とする「音更町教育大綱」を多くの町民の意見を反映して策定された「第5期音更町総合計画」との整合性を図るため、その基本目標の1つである「心豊かな人を育むまち」を教育大綱として定めたところでございます。また、対象期間経過後の平成30年からは、引き続き第5期総合計画を尊重することが本会議において確認され、併せて教育大綱についても継続することが決定されたところでございます。昨年3月、本町が目指すべき将来のまちづくりの方向性を示す最上位計画として、新たに令和12年度までを計画期間とする「第6期音更町総合計画」が策定されたことに伴い、それを踏まえた教育大綱の見直しを行うものであります。

次に、2の教育大綱の対象期間であります。平成27年に策定した教育大綱については、当時の町長の任期満了に合わせ対象期間を3年間とし、対象期間内であっても必要に応じ

て見直すことを想定しておりましたが、平成30年からは考え方を改めまして、特に期間を設定せず、町の総合計画をはじめ各種計画の見直し時期などにおいて、教育を取り巻く環境や社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しの検討を行うこととしております。

2ページをお開き願います。3の教育大綱の基本的な考え方として、①第6期音更町総合計画と整合性を図る、②音更町の教育目標を尊重する、③教育行政執行方針の指標とする、としております。4の教育大綱2本の柱についてであります。第5期総合計画の施策の大綱で定めている子どもの教育と生涯学習を教育大綱の2本の柱として、2本の柱それぞれで掲げている各項目に沿って具体的な取組を行い、教育行政を推進することとしております。子どもの教育の項目としては、①学力の向上、②ふるさとを愛する心、③健やかな体づくり、④地域総ぐるみで子どもたちを育てる、の4項目であります。もう1つの柱である生涯学習の項目としては、①学習機会の充実、②図書館を中心とした活動の推進、③文化・芸術活動の推進、④スポーツ活動の推進、の4項目であります。各項目における、それぞれの具体的な取組につきましては記載のとおりでありますので説明は省略をさせていただきます。

次に、5の新たな教育大綱（案）についてであります。ただいまご説明させていただきました、これまでの経緯等を踏まえ新たな教育大綱においては、①として、教育大綱を第6期音更町総合計画の基本構想のうち、教育分野に関わる基本目標である「生きる力、支える力を育むまち」とする、②として、次代を担う子どもたちの生きる力を培うとともに、誰一人取り残さない教育・学習・文化活動を総合的に展開し、誰もが生涯にわたって健康で充実した生活を送ることができるよう、「子どもの教育」と「生涯学習」の教育大綱2本の柱は、引き続き基本的な方針として掲げ、各項目に沿った取組を推し進める。③として、教育大綱の対象期間については、これまで同様に設定しないこととし、総合計画をはじめ各種計画の見直し時期などにおいて教育を取り巻く環境や社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しの検討を行う。以上、新たな教育大綱においてご審議いただく内容となっておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

なお、8ページは、今回ご協議いただく（案）を添付しておりますのでご参照いただければと存じます。

また4ページ、5ページは、参考であります。総合計画等の主な内容として、（1）第6期総合計画基本構想、（2）音更町の教育目標、（3）教育行政執行方針と主な内容を記載しておりますので、ご参照いただければと存じます。

以上、説明とさせていただきます。ご協議のほどよろしくお願い申し上げます。

（町長）

説明が終わりました。これから説明をしました件につきまして質疑をいたします。

質疑はありませんか。

（各委員）

ありません。

（町長）

なければ、質疑を終わります。

これから、協議案第1号について採決します。

本件は原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(各委員)

異議なし。

(町長)

異議なしと認めます。本件は原案のとおり決定をされました。

(教育部長兼教育総務課長)

町長。最後に一つよろしいでしょうか。

(町長)

はい。

(教育部長兼教育総務課長)

ご決定をいただきましてありがとうございます。

7ページを見ていただきたいんですが、現在の教育大綱の審議をした経過等を記載しております。従って今回決定をいただいた⑧の裏面に、今回私が説明したような内容、それからご審議いただいた内容について簡潔にまとめをさせていただきまして公表の際には掲載をさせていただきたいと思いますが、その内容につきましては事務局の方で取りまとめをさせていただきたいと思いますのでご了承いただければと思います。以上です。

(町長)

教育部長から説明があったとおり、お受け止めいただきたいということです。よろしいですか。

(各委員)

はい。

(町長)

それでは、次に移らせていただきます。

協議案第2号 郷土の歴史と文化の学びの充実に向けての件を議題といたします。

協議案第2号は、はじめに、音更町農村環境改善センターの施設概要について説明を行い、その後郷土資料室のリニューアル事業の概要説明、最後に足寄動物化石博物館特任学芸員澤村先生による講話という流れで進めたいと思います。それでは本件について事務局から説明をお願いいたします。

宮田生涯学習課長。

(生涯学習課長)

協議案第2号「郷土の歴史と文化の学びの充実に向けて」でございますが、最初に、私から農村環境改善センターの施設概要をご説明申し上げた後に、郷土資料室リニューアル事業の概要につきましては、生涯学習課の横田から説明させていただきます。

また、今回のリニューアルは町民の皆さんから幅広く意見をいただきながら、進めてまい

りましたが、展示や資料の調査・再評価につきましては、専門的な知見をお持ちの7人の方に「調査員」としてご助言とご協力をいただいております。

本日は、今年度リニューアルのメインとなる「自然史展示」をご担当されている、足寄動物化石博物館前館長で現在は特任学芸員であります、澤村寛先生にご講話をいただく予定となっております。

それでは、議案の9ページをご覧くださいと存じます。

音更町農村環境改善センターの施設概要についてご説明を申し上げます。

郷土資料室があります音更町農村環境改善センターは、昭和55年度に農村総合整備モデル事業により整備された「町民のコミュニティ活動を促進し、生活と生活文化の向上を図るための施設」で、町民の生涯学習に対する理解や関心の高まりを受け、生涯学習を推進する「生涯学習センター」に位置付けて、活用されてきました。昭和56年度には、郷土資料室が完成、オープンしたところですが、約40年が経過し、建物・設備の老朽化も著しいことから所要の改修工事を行い、また、令和元年度に生涯学習課・スポーツ課の事務所機能を役場庁舎へ移転したことに伴う空きスペースを活用しながら、郷土資料室の充実・整備を進めることといたしました。

なお、国の補助事業で取得した財産について、用途の変更を行おうとする「長期利用財産処分報告書」を農林水産省に提出し、令和2年2月に受理されたところです。

郷土資料室には、開拓当時の農機具や生活用具などの郷土資料1,600点余りと、発掘調査により出土した縄文時代早期からの埋蔵文化財900点余りを収蔵・展示しています。

また、近年の利用者数の推移であります。平成30年度が570人、令和元年度が695人、2年度が323人で、例年、小学校の社会科見学が利用の中心で半数近くを占め、そのほか30年度から実施しております「郷土資料室開放まつり」や帯広大谷短期大学博物館実習などが主なものでございます。

このあと、郷土資料室リニューアル事業の概要について、横田からご説明申し上げます。
(生涯学習係主任)

生涯学習課の横田でございます。私からは、リニューアル概要として、郷土資料室調査員について、全体的な展示の流れについて、リニューアル日程について、資料室事業についての4点を説明させていただきます。

郷土資料室には、現在、2,500点以上の資料を所蔵していますが、収集記録や保管経緯などの記録がないものもあり、それら資料が展示に資するものなのか、歴史的な価値があるものなのかを改めて評価する必要がありました。また、資料の見せ方や伝え方である展示方法や資料の劣化や破損を防ぐための保存方法についても専門的な知識が必要であり、帯広大谷短期大学岡庭教授のご紹介で、それぞれの専門家に郷土資料室調査員として指導助言をお願いすることとしました。

郷土資料室調査員は、元浦幌町立博物館館長、後藤先生。今日来ていただいた足寄動物化石博物館の澤村先生。帯広百年記念館前館長、北澤先生。文化庁調査官、現在ウポポイにい

らっしゃる内田先生。帯広畜産大学教授、佐藤先生。帯广大谷短期大学教授、岡庭先生と、特任教授の笹島先生にお願いすることとしました。それぞれ専門性が違いますので、それぞれのエリアで指導していただくこととなりました。また、見やすい展示のために、各種デザインを本町出身のデザイナーで、十勝川ガーデンスパなどのデザインに携わっている重野さんにご協力をお願いするところです。

リニューアルにあたっては、町民の意見を積極的に取り入れるため、令和2年8月19日に「郷土資料室の充実に関しご意見を聴く会」を開催し、展示については、小中学校の郷土学習に活用できる施設にしてほしいですか、小学生でも分かりやすい展示にしてほしい、鉄道関係を表示してほしい、開拓以前の人々の営みを展示してほしい、資料に触れることができる展示にしてほしい、運営・体制については、学芸員を設置してほしい、博物館の整備を視野に入れるべき、といった多くの意見が寄せられました。

その後、新型コロナウイルス感染症拡大のため、郷土史研究会や小学校見学の際にご協力いただいている郷土資料室サポーター、「ご意見を聴く会」に出席いただいた住みよい音更町をつくる会、蒼い風の会など個別に団体と協議を重ねてまいりました。これら意見を念頭に、リニューアル後の展示コンセプトについて調査員の先生方の助言を受けて『「十勝の自然とともに暮らす音更」音更・十勝の多様な自然の姿を学び、これらの自然を利用することで暮らしてきた人々の歴史と積み重ねられた音更の歴史を改めて学ぶことができる展示とする。』としました。展示シナリオとして『時間の流れに沿って展示、大人から子どもまでそれぞれの学習を助ける展示、小学生の郷土学習のためになる展示、特別展示などを行い、継続的に利用してもらえる展示』としました。見学の順番は時間の流れに沿って見学することを基本に、それぞれのテーマに分けて展示することとしました。最後は、小さな子どもも楽しむことができ、小中学生が物語で分かりやすく音更の歴史を絵本で学ぶことができる絵本展示としています。

今回のリニューアルでは、相当な作業量もあることから、2回に分けて実施することにしました。1回目が自然史、考古、アイヌ文化、絵本エリアで令和4年3月完成を予定しています。2回目が農業・農機具、開拓史・生活道具、映像・資料で令和5年3月を予定しています。

最後に、資料室事業についてお話しします。

町民と一緒に行うリニューアルにしたいと考え、展示にも町民が参加できる機会を作ろうと進めています。今年度につきましては、澤村先生にお願いし、「音更こども体験隊」の1コマで小学校4～6年生20人で化石を取りに行きました。芽室町の国見山の崖に亜炭層が露出している場所があり、崖を上って急斜面での発掘作業でした。ミツガシワの種や甲虫の羽の化石を見つけることができ、子どもたちが大喜びしている姿が見られました。この時にとれた化石を展示に組み入れたいと考えています。

令和3年11月23日にリニューアルの概要と各展示について説明する機会として、郷土資料室リニューアルセミナーを開催し、19名が参加しました。各展示の説明では、本日来

ていただいている澤村先生に加え、北澤先生に講話いただきました。現在の構想や進捗状況を共有することで、リニューアルについて理解をいただいたと考えています。考古資料展示において、当時の生活の様子をわかりやすく伝えるために絵を展示することとしました。絵の作成を音更高校美術部に依頼したところ、2名の生徒が協力いただけることになりました。

3月27日にリニューアルへの町民参加機会と職業体験を目的に「左官体験講座」を開催予定です。小学校5、6年生を対象にインフォメーション後方の壁を左官により塗装します。町内の左官職人である尾崎さんの協力により開催できることとなりました。

展示のリニューアルは令和4年度で終了しますが、継続的に利用してもらうためには、興味を持ってもらえる事業の開催などが不可欠と考えています。今年度までは町内の史跡をバスで巡る「史跡巡りツアー」を年2回程度実施していますが、これに加え講座、茶話会を開催します。資料室講座として澤村先生に「おとふけの大地」と題し、明日、講演いただく予定で、今後も様々な方を講師に招いて開催したいと思っています。また、先にお話しした化石発掘体験などの体験講座も多く開催したいと考えています。

茶話会については、1月から毎月第1金曜日に開催しています。1月は7名、2月は3名とまだまだ参加人数は少ないですが、資料室を身近に感じてもらうために継続的に開催します。以上で、郷土資料室リニューアルの概要説明とさせていただきます。

～澤村先生 講話～

(町長)

それでは、これから意見交換になります。今回、総合教育会議に初めてご出席をいただいておりますけれども、高橋委員、感想などがありましたらお願いします。

(高橋委員)

教育委員となりまして初めて総合教育会議に参加させていただいて、農村環境改善センターにも小学生のときに、1、2度、授業の一環として見学した記憶が蘇って大変なつかしいなという気持ちになりました。その中で、今回リニューアルをされるに当たって、子どもの頃の記憶が蘇ったのと、リニューアルに対してワクワク感があります。第1回、第2回、全てのリニューアルが終わったときに、職員の皆さんの知恵の結集が実を結んで素晴らしい成果になることを期待しておりますし、出来たときにはぜひ家族で足を運んで見させていただきたいと思いました。

子どもたちからお年寄りまで、大勢の町民の皆さん、また、音更町は帯広市のベッドタウンでもありますので、他町村の方にも足を運んでいただけるような素晴らしい施設になることを期待しております。以上です。

(町長)

ありがとうございました。それでは続きまして川井委員。

(川井委員)

教育委員をお引き受けした時に1度こちらの施設を見させていただいたんですけども、リニューアルに向けてとてもワクワクするような施設になっていて、楽しみだなと思っております。

足寄の化石博物館も、子どもが小さい頃には、年に何回も行って、化石発掘の体験をしたりしたことがあるんですけども、身近に子どもたちが地域の歴史を感じられるような施設ができると思うと嬉しく思います。楽しみにしています。以上です。

(町長)

田中教育長職務代理者。

(田中教育長職務代理者)

本当に今日見学させてもらってよかったなと思ってるんですけど、考えてみるとこういうことがなかったら、今までずっと集めてきた物というのは、目の目を見ないで終わったのかなと思うとすごく良いタイミングだったと思います。やはり郷土愛ということで、こういう場がなければ振り返ることもできないと。音更の本当に古い歴史、あるいは農作業、生活様式なんかも見ることができるし、大変勉強になりました。子どもたちにも見せてあげたいなと思います。

道の駅の方でも、音更町のことを、できれば音更高校も含めて何かできればいいなと思います。以上です。

(町長)

種川委員。

(種川委員)

今日はありがとうございました。まず感じたことなんですけども、最初に音更町教育大綱の基本目標が、生きる力、支える力を育むまちというふうに変えるということで、目指す方向がよりはっきりしたような、そんな印象を受けますし、非常に良かったなというふうに思いました。

それから、リニューアルに関わってなんですけども、町民が何回も来れる、そんな施設になればいいなというふうに思いました。それでちょっと具体的なことになるんですけども、町民に呼びかける1つの手立てとして町内会か何かに呼びかけてくれてもいいなと。町内で、学芸員さんの説明を聞いて、その後、その場を帰るんじゃなくて、ちょっとお茶を飲みながら話もできるようなスペースもあればいいなというふうに思いました。

それと、先ほど田中委員もちょっと触れたんですけど、高校生の活躍の場をぜひここでも何とか設けてほしいなとそんなふうに思いました。大変楽しみにしています。

(町長)

ありがとうございます。

福地教育長。

(教育長)

この郷土資料室の見直し、リニューアルについては、令和元年に、生涯学習課とスポーツ課は役場庁舎に事務所を移転するということがきっかけとなって、空きスペースの後利用をどうするかということがまずスタートにありました。そんな中で町内の高齢者大学の卒業生の方ですとか、町内の郷土の歴史を頑張っておられる方々から、施設を拡充してもらえないかと意見としていただいております、そのようなこともあって見直しをしようとなってきたわけなんです。

そのときに、帯広大谷短期大学の岡庭先生のほうから、実は自分のお世話になってる先生方5名ぐらいにお手伝いしていただけるかもしれないというお話もありまして、そうしましたら、十勝のそれぞれの分野の1番の指導者の方々でしたので、ぜひお願いしていただけないでしょうかということで、声をかけていただいたら、本当に快くお引き受けをいただいて、このような形で進められることになりました。

そういった中で、町としてどんな体制をとれるのかなということもありまして、先生方へお願いしたときに、箱を造って終わりじゃないよと、物を展示して終わりじゃない、当然中身も変えなきゃならないけれども、それだけでも駄目だと。やはりその施設には、例えば、学芸員なり学芸員じゃなくても町民があの人に会いに行きたいなというような名物になるような人を置かないと、なかなかリピーターって来ないんだよというお話を、それぞれ十勝の博物館の館長をされていた方たちから、自らの経験を基にお話を聞かせていただいたものですから、町長にもご理解をいただいて、学芸員さんを採用してみたり、今年度からですけれども、生涯学習まちづくりプロデューサーということで、上野山さんに教育委員会で勤務をしていただいたりということで頑張らせていただいております。

そんな形でスタッフのほうも揃えながら、なかなかお金をかけられない状況がある中で、再利用、リニューアルしながら町民の方にも手伝っていただいて、手造りで進めているところですが、今のところ非常に上手くいっているなど職員の皆さんには感謝をしております。

今後は、第2期をどういうふうに進めていくかということと、町民の皆さんにリピーターになっていただけるような講座ですとか、茶話会という話も出ていましたけれども、そんな町民が気軽に来ただけのような場所、そういった意味では、今日説明があまりなかったんですけども、中庭の利用というのを何か仕掛けが出来ないかということで、ガラス張りの中庭がありますので、お子さんの中で遊ばせておいて、お父さん、お母さんは周りのベンチに座ってお話をするとか、子どもたちが気軽に遊びに来るような場所にして、知らない間に郷土の歴史を学べる施設に出来たらいいねというようなことも考えているところです。

職員も沢山のアイデアを持っていますので、町民の皆さんのアイデアを合わせながら、自分たちの作品という気持ちで進めていければなと思っています。以上です。

(町長)

ずいぶん皆さん方と関心の深いお話が出来ました。高橋委員の自分が昔来たことを思い出すというお話と、今日見たことによって大きな期待とワクワク感があるというお話をいただきました。また、家族と来れば良い、勉強にもなるし、将来にも活きるのではないかと

というお話もありました。川井委員も、教育委員として今日来れたことが嬉しいということや、身近に地域の歴史を感じれる、これから大きく変わっていくのを非常に楽しみにしているということをおっしゃっていて、田中教育長職務代理者からも、このような機会がなければ、こういうことを感じることも、それを目にすることも出来なかったのかなというお話もあり、こうして造り上げてくれた人たちに感謝したいと思います。

特に基幹産業が農業であるということからも、100年から120年の歴史を重ね、音更の基礎を築いてくれた古き農業の様子などを訪ね、触れさせてあげたいということも併せて、今後、音更高校や道の駅などいかに連動させていくかも大事になってくると思います。

また、種川委員からのお話でありがたいなと思ったのは、音更町の教育大綱の2本柱というのは大事なことだと。この教育の中の子育て、更には、生涯学習ですけれども、町がこれだけ基盤がしっかり整ってきた時に、最初と最後はしっかりしていくというのは大事だという意味では、内容についてはふさわしいものになっているというお話がありましたのでありがたく思っています。この農村環境改善センターのリニューアルについて、造って終わりじゃなくて、やはりここでコミュニケーション、茶話会、そういった機会ができるような場所になってほしいなと思います。

あとは、ご講演いただいた澤村先生はじめ、しっかりした知見・知識を持った人たちから、自分たちの中で今まで音更には博物館がなかったという意見がずっと出続けていた、やはりしっかりとそういったところに知識を持たれている人にお話があったところから、今日の澤村先生をはじめ、学芸員の皆さん方からわが町にその知恵を貸していただける環境が出来たということが今に繋がってきたというお話がありました。また、最後に教育長がお話していましたが、リピーターになってもらうための魅力づくり、中庭の全体像の説明もしていただいたんですけれども、あとは、どう私たちが魅力のある場所にしていくかが大事になってくる思っています。

今日は皆さんのすばらしいご意見いただけて良かったなと思います。本当にありがとうございました。

それでは、改めてここでご意見、ご感想があれば、ぜひ言ってもらってもらえればなと思います。

(田中教育長職務代理者)

総合教育会議というのは、年に1回しかないんですよ。今日のテーマと違うかもしれないですけど、新聞にも出ていたんですけど、音更町が小学校の低学年の30人以下学級を実現するんですね。それは、教育委員会を通じて、本当に教育委員の総意だったんです。それが、予算のときに活かされた、本当に町長を含め、私達も今の子どもたちに幼児教育も含めて方向性が一致したということですよ。僕らの想いが町長側も聞いてくれたという、目指しているのは一緒だと、すごく嬉しく感じました。これが1つお礼として言いたかったことなんです。

それともう1つ、今回のコロナ禍で小学校、中学校で感染者が出ています。教育委員会の

事務方から連絡をもらうんですけど、その後、教育委員会の職員が消毒までしていて、職員たちは一生懸命頑張っているの、そこをぜひわかって欲しいということでお話をさせていただきました。

(町長)

さっきのワクワク感と同じくらい響くお話でした。特にこの2年間は、最初の挨拶でも申し上げましたけれども、歴史にないような状況の中で、教育が進められる中で気付きがあって、頑張ってくれているなど思っています。ほかには皆さんよろしいですか。

(各委員)

はい。

(町長)

それでは、私からお話させていただきます。本当に今日はこういった中で、皆さん方の貴重な、率直な考え方を伺うことができ良かったなど思っています。まず、吉田部長から一言お願いします。

(企画財政部長)

コロナの消毒のお話もいただきまして、教育委員会の職員が毎日消毒されているというお話で、ご相談もいただいて、予算的に委託料を若干確保できることになりまして、その前に、教育委員会の職員だけでなく、全体の職員で消毒をやっていたんですけども、なかなか土日ですとか、その日の対応が難しい部分もありますので、そういった委託料を使いながら、委託業者にお願いをしてもらってというように進めていきたいと思っております。

(町長)

このコロナ禍で、コロナ対策会議を53回開催していて、その中でも皆さん方各部署で横の団結をして協力していただけているんですね。なおかつ、音更はコロナ対策会議を立ち上げるのが、どこの町よりも早かったです。そして、今も53回。こんなにきめ細かにやっているところはないです。一番影響するのは、学校なんです。今も日中問わず消毒を含めて、あるいは情報のやりとり、今日も朝から毎日なんです。そういったことでピークアウトから少し良くなっていくだろうという話もある中で、今日も十勝総合振興局長から言われたのは、道内でも他のところは少しピークアウトしてきている、ところが、十勝は出るのが遅かったから、下がるのはちょっと遅いと。うちの町はそれにめげず2年間ずっとチームワークを組みながらやってきているので、ぜひ私からもお礼を申し上げたいと思っております。

あと、先ほどの少人数学級、30人以下学級、これは教育委員会長年の懸案で、なぜ音更は学校を集約しない、統合したりしてこなかったかというのは、これは教育委員会のしっかりした基本姿勢があったからで、学校給食一つにしても自校給食、とにかく一人ひとりに寄り添っていく姿、今寄り添うという言葉をみんな使うでしょ。でも、言葉を使うだけではなくて、課題がちゃんとできるかどうか、そして音更は今教育に関心を持ってくれるような、2本柱をちゃんと受け止められるような町になってきた、そういうところをしっかりと冷静にできる町になってきたと思っています。それは若いからとか高齢者ということではなく、勉強

するのは一生、そのための土壌として2本柱がしっかり出来たということで、さっき種川委員からも、これは非常に良いというお話もいただきました。非常に中味の濃い会議になってありがたいなと思っています。

それでは、協議案第2号についての協議を終了いたします。

提案した協議案以外に何かあれば発言してください。

(各委員)

ありません。

(町長)

本会議に付されました協議案件の審議はすべて終了しました。

これをもって会議を閉会したいと思います。ありがとうございました。

(教育部長兼教育総務課長)

それでは、これをもちまして令和3年度音更町総合教育会議を閉会をいたします。